

道徳のひろば ③

道徳的価値「親切」(心と心のあく手)

5/30日(火)、高知大学准教授森有希先生をお迎えし、今年2回目となる研修会を行いました。森准教授には3時間目に6年生、4時間目に4年1組の授業を観ていただき授業者は展開など授業全体の進め方について教えていただきました。

午後からは、3年生の公開授業を観ていただきました。森准教授からは「3年生の授業の展開が素晴らしかった。」「子ども達はよく考えて自分のおもいや気持ちを発表していた。」「道徳的価値に迫る発表ができていた。」「上田先生の授業は、これから道徳の教科として目指す、より多面的・多角的な見方へと展開していく授業に近い。この様な授業がこれから求められる授業です。これからは更に研究を深め頑張ってください。」と、大そう褒められました。また、西部教育事務所の宗崎指導主事(昨年まで本校教諭)からも森先生同様に「とても良い授業でした。昨年観た授業より更にバージョンアップしています。100点です。」と褒めていただきました。道徳科専門家の2人にあまりにも褒められるので、上田先生もこらえきれず「すみません。」と立ち「今日の授業はぼくの力ではありません。中学年のチームが毎日遅くまでいっしょに教材研究し、何度も授業展開をやり直した結果が今日の授業をつくりました。ただ僕は、その代表で授業をさせていただきました。」と謙虚に答えていました。中村南小のチーム力(チームの支えや応援、課題に対する追求、とことんやる精神)は学校経営にとっていつもありがたく思っています。

全体会の講話では『道徳科の評価の在り方について』の基本的な考え方をお習いしました。いよいよ平成30年度からスタートする「特別な教科道徳」の新しい内容、そして評価も加わることから他校からもたくさんの先生方が研修に参加してくれました。



【研究協議から一部を紹介】『多面的・多角的な見方へと発展している授業になってきている』『あたたかい受け止め方がナイス！何でも素直に言っていいい雰囲気』『途中で「自分だったら」と考えることで、自分ごととして必死的に考えられた』『はじめの親切、最後の親切というカードを張り、この授業で親切の捉え方・見方を変えていきかけたのがよく分かった』『手立てとしての比較が有効だった。これまでの親切の捉え方から考えが広がったのではないかな』 課題：『「声をかけない」といったぼたんちゃんの見方の中で、「もし、歩く練習だったら、迷惑になるかもしれないから・・・」と言った後、問い返しをしたらどうなっていたか』『今後、お互いの意見について、自分の意見を絡めて発言できるようになるといいと思う』・・・これ以外にもたくさんの意見をいただきました。参加いただいた他校の先生方ありがとうございました。